

実証課題名:輸出用米を加えた2年3作体系(水稲+大麦+大豆)の超低コスト大規模営農体系の実証
経営概要:84ha(水稲57ha、大麦25ha、大豆25ha)うち実証面積:水稲11ha、大麦3ha
大豆3ha

導入技術

- ①栽培管理支援システム、②自動走行トラクタ、③GPS田植機、④自動給水栓、⑤空撮ドローン、
⑥収量コンバイン、⑦自動運転コンバイン



目標

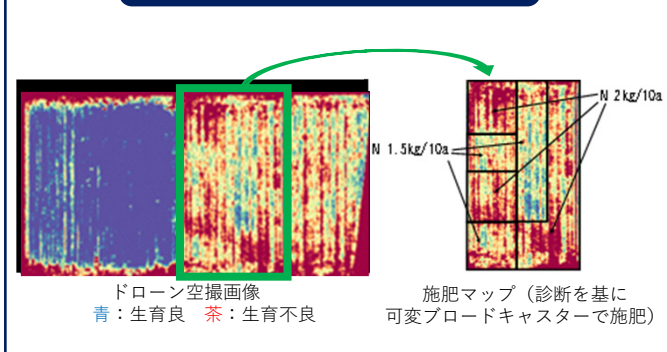
輸出米収量720kg/10a
水稲、大麦、大豆 労働時間30%削減、収量10%向上

1 初年度の実証成果の概要

- 空撮ドローンによる生育診断と追肥の組み合わせで輸出米収量が4%向上(671kg/10a→701kg/10a)
- 自動走行トラクタを組み合わせた有人-無人協調作業で労働時間(耕起作業)を37%削減
- 自動給水栓の遠隔操作により、6km離れた圃場の水管理を95%省力化
- 自動走行トラクタの無人走行による大麦の無人播種により、直進作業と良好な生育を確保

2 導入技術の効果

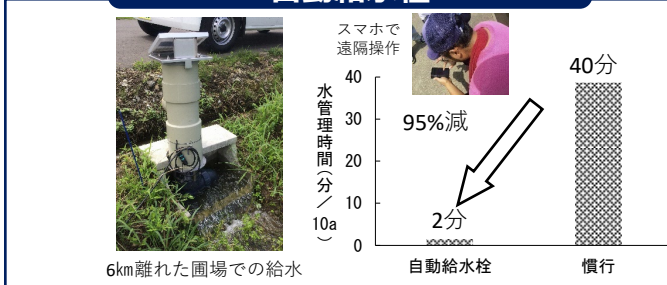
ドローンによる生育診断



自動走行トラクタ (耕起)



自動給水栓



自動走行トラクタ (大麦播種)



3 今後の課題・展望

- 自動運転トラクタ+有人トラクタの協調や直進アシスト機能を活用し労働時間削減
- 収量コンバインを用いた収量マップと空撮ドローンの生育診断と組み合わせた基肥・追肥による収量向上